



PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

西日本決勝 大宝塚GC (兵庫) 最終日結果のお知らせ

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝 >

◇最終日◇4月1日

◇兵庫・大宝塚GC (15-18歳の部男子6771ヤード、パー72ほかカテゴリー別) ◇晴れ

◇出場172人◇

<西日本決勝 最終日概況>

IMG A世界ジュニア (7月10~13日、米カリフォルニア州サンディエゴ) の日本代表14人が決まった。

15-18歳の部男子は、通算2オーバー146で中尾亮太 (京都・同志社高3年) と小木野太優 (大阪・近畿大付高2年) がトップに並び、IMG A世界ジュニア (7月10~13日、米カリフォルニア州サンディエゴ) 代表を手にした。順位を決めるプレーオフで中尾が1位となり、男子ツアー「HEIWA・PGM CHAMPIONSHIP」出場権も獲得した。

同女子は昨年代表の小野里リア (熊本・クリスチャンアカデミー・イン・ジャパン熊本分校3年) が2日連続の72で通算イーブンパーにまとめ、1位となって2年連続出場を決めた。6位スタートの仲村果乃 (奈良・奈良育英高2年) が追い上げ、通算1オーバーで2位に食い込み、世界切符を手にした。

13-14歳の部男子は仲宗根祥仁 (沖縄・緑風学園久志中2年) が1位、横山翔伍 (宮崎・姫城中2年) が2位で代表入りした。仲宗根は「HEIWA・PGM Challenge II~Road to CHAMPIONSHIP」出場権も獲得。同女子は杉浦愛梨 (愛知・高浜中3年) と藤井美羽 (愛知・千種台中2年) に決まった。

※所属は進学校、新学年で表記しています。

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝 >

IMG A世界ジュニア日本代表は以下の通り。

▽15-18歳の部男子

【1位】中尾亮太 (京都・同志社高3年) = 146

【2位】小木野太優 (大阪・近畿大付高2年) = 146

▽同女子

【1位】小野里リア (熊本・クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン高熊本分校3年) = 144

【2位】仲村果乃 (奈良・奈良育英高2年) = 145

▽13-14歳の部男子

【1位】仲宗根祥仁 (沖縄・緑風学園久志中2年) = 151

【2位】横山翔伍 (宮崎・姫城中2年) = 153

▽同女子

【1位】杉浦愛梨 (愛知・高浜中3年) = 149

【2位】藤井美羽 (愛知・千種台中2年) = 150

▽11-12歳の部男子

【1位】松井琳空海（愛媛・高津小6年） = 1 5 1

▽同女子

【1位】三明桜子（福岡・沖学園中1年） = 1 4 8

▽9-10歳の部男子

【1位】篠原和樹（愛媛・川之江小5年） = 1 6 1

▽同女子

【1位】菊田ひな（香川・さめき北小5年） = 1 5 1

▽7-8歳の部男子

【1位】加藤金次郎（愛知・長根小2年） = 1 4 2

▽同女子

【1位】鈴木めい（千葉・豊岡小3年） = 1 4 5

※同スコアはプレーオフによる。

※所属は進学校、新学年で表記しています。

●西日本決勝 初日ハイライト1

◇15-18歳の部男子◇最終日◇4月1日

◇兵庫・大宝塚GC（6771ヤード、パー72）

中尾亮太（京都・同志社高3年）と小木野太優（大阪・近畿大付高2年）が通算2オーバー146で並び、世界ジュニア代表を決めた。「HEIWA・PGM CHAMPIONSHIP」出場権をかけて、順位を決めるプレーオフに突入。10番パー5で中尾が2オンに成功、2パットでバーディーを奪い、小木野が7メートルのバーディーを外して中尾が1位になった。ともに世界ジュニアは2度目の出場。中尾は2013年に11-12歳の部に出て10位になった。その後は予選に出場しなかったが「あの時は15-17歳の部で日本代表が通用しなかった。いま自分がその年齢になって、力を試してみたくなった」と予選から出場して、代表を勝ち取った。小木野は2015年に13-14歳の部で17位。「初日よくて（5位）だんだん順位を落とした。いまなら最後まで伸ばせるゴルフができると思って挑戦したい」。2人とも前回からの成長を見せる舞台になりそうだ。

●西日本決勝 初日ハイライト2

◇15-18歳の部女子◇最終日◇4月1日

◇兵庫・大宝塚GC（6174ヤード、パー72）

仲村果乃（奈良・奈良育英高2年）が通算1オーバー145にまとめ、優勝した小野里リア（熊本・クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン高熊本分校3年）に1打差の2位に食い込んだ。第1日は76で首位に4打差6位。「今日は上位に行けたら十分とっていたんですけど、だいぶ調子がよかった」と振り返る。1つスコアを伸ばして折り返した後半、11番で2メートルを沈め、12番では右バンカーから15ヤードを直接入れ、13番で3メートルを決める3連続バーディー。小野里をいったん逆転したが、その後のボギーもあったが、3アンダー69で回って2位。「アンダーを出さないとだめとは思っていたけど、アンダーがそう出る方じゃないので、本当にうれしいです」と笑顔を見せた。世界ジュニアは初出場になる。「今回は1メートル強のパットを外したので、ちゃんと入れられる腕になって行きます」と課題を挙げていた。



写真：15-18歳男子 中尾亮太
©IJGA2017



写真：15-18歳男子 小木野太優
©IJGA2017



写真：15-18歳女子 仲村果乃
©IJGA2017

●西日本決勝 初日ハイライト3

◇13—14歳の部女子◇最終日◇4月1日

◇兵庫・大宝塚GC（6174ヤード、パー72）

藤井美羽（愛知・千種台中2年）が世界ジュニア切符を獲得し「夢みたいです。行けたらいいなというぐらいで、今回は挑戦と経験のために出たので、代表になれるなんて思っていませんでした」と、ホールアウトして代表入りを告げられても信じられないといった表情を見せた。第1日は76で首位杉浦愛梨（愛知・高浜中3年）に2打差の2位。1つスコアを落として折り返したが、10番で1メートルについてバーディー。15番では「練習ラウンドで今日と同じようなピンとボールの位置で練習したので、メモに切れ方とか書いてあって自信があった」と、6メートルのパーパットを決めたのが大きかったという。この日2オーバー74に粘り、後続がスコアを落としたことで、杉浦と2人が抜け出した形になった。世界ジュニアで戦うイメージについて「周囲に惑わされず、自分のリズムでやりたい。うまい人がいっぱいいると思うので、勉強もしていきたい」と、話していた。



写真：15-18歳女子 藤井美羽
©IJGA2017